

環境コミュニケーション

「彦根城築城400年記念・日経シンポジウム」で高田頭取がパネリストとして参加

「彦根城築城400年記念・日経シンポジウム」(主催:日本経済新聞社)が平成19年6月2日、滋賀県彦根市のひこね市文化プラザで開催され、当行の高田統一頭取がパネリストとして参加。

同シンポジウムでは「磨こう!地域の個性・城と街と人と」を主なテーマに、地元の産学官と連携し、どのように地域の個性を活かして発展・活性化を実現するのかについて活発な討論が展開されました。

高田頭取は、討論の中で当行の環境経営を紹介するとともに、「環境や人の健康を最優先する口ハス志向のビジネス」や「CSRを重視したビジネス」の二つを切り口として、「21世紀の持続可能な新しいライフスタイルを地域で実践することが大切である」と熱い思いを語りました。

また、現在当行が行っているニュービジネス支援ネットワーク「しがぎん『野の花応援団』」を例に、産学官に当行を加えた「産学官・金(金融)」の地域でネットワークを築く必要性についても述べました。



滋賀県立大学「近江環人地域再生学座」で高田頭取が講義

滋賀県立大学の「近江環人地域再生学座」で高田統一頭取が講義、当行の地方銀行としての使命、環境を主軸としたCSRの取り組みなどについて紹介しました。

同大学では文部科学省の委託を受けて、平成18年度から平成22年度までの5年間にわたり、滋賀県の地域再生を担う人材育成のための教育プログラムが実施されており、高田頭取が講師として登壇したものです。



「ビジネスメッセ2006」に出展

当行は、「びわ湖環境ビジネスメッセ2006」に出展。環境ソリューションゾーンで環境対応型金融商品「琵琶湖原則支援資金」や「エコプラス定期」の商品内容や実績、並びに学校ビオトープづくりへのサポート活動などをビデオやパネルで紹介しました。

期間中、当行のブースには、企業をはじめ約1,000名の皆さまにご来場いただき、当行の環境保全活動への取り組みに対し「銀行が環境に配慮する企業を育てれば消費者の意識も変えることができる」「お金の流れから環境を変えていくことはとても大切で効果的な取り組みだ」と思うなど力強い激励をいただきました。



東近江市紅葉尾

CSR
リポート
2007